

第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時：令和7年2月21日（金）

10：00～11：00

会場：三朝町役場第2会議室

1 開会

青木地域振興監	ただいまから新たな地方創生の実現に向けた第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議を始めさせていただきます。本日の進行を務めます企画健康課の青木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして松浦町長から挨拶をいただきたいと思います。
---------	--

2 町長あいさつ

松浦町長	今日は大変雪の中、お忙しいところありがとうございました。第3期の三朝町まちひとしごと創生推進会議を開催させていただきました。今日の会議は2期3期それぞれの検証報告・説明をさせていただきますが、石破総理のもとで、地方創生2.0を起動して、令和7年の前半中ぐらいに計画を作っていくということでこれから進めていくことになります。今回は、これまで三朝町が取り組んできておりますデジタルや温泉活用、人口減少対策などをベースにしながら、計画を組み立てていくといいのかなというふうに思っております。町の皆さんが、それぞれの力を出していただいて、まちの活力を作っていくということにできたらなというふうに思っております。これからの地方創生2.0の計画づくりに向けての皆さんの日頃からのご意見をちょうだいできればというふうに思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。
------	--

3 自己紹介 資料1

青木地域振興監	それでは議題に入ります前に、初めてでございますので委員の皆様の自己紹介をお願いしたいと思います。資料1に名簿をつけておりますが、この順番お願いいたします。
岩崎委員	三朝温泉旅館協同組合の理事長の岩崎でございます。初めての参加となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。
福田委員	三朝町商工会会長の福田です。よろしくお願いいたします。
山本委員	三朝町農業委員会の会長をしております山本です。よろしくお願いいたします。
加藤委員	中部森林組合の組合長の加藤です。よろしくお願いいたします。
荻原委員	倉吉公共職業安定所の荻原と申します。よろしくお願いいたします。
中嶋委員	日本海ケーブルネットワーク倉吉放送センターの中嶋と申します。よろしくお願いいたします。

高見委員	竹田地域協議会の高見です。よろしくお願いします。
松浦委員	三朝町教育委員会所属の地域コーディネーターをしております、松浦と申します。よろしくお願いいたします。
小谷代理	鳥取銀行の小谷といいます。支店長代理で出席しております。よろしくお願いいたします。
塩谷委員	町内に4つある郵便局を代表しまして、三朝郵便局の局長をしております塩谷です。よろしくお願いいたします。
岩本委員	NTT 西日本鳥取支店から参りました蛸積と申します。よろしくお願いいたします。
三沢委員	鳥取短期大学の三沢と申します。三朝町様とは、令和2年度から事業等で連携をさせていただいてます。よろしくお願いいたします。
岸田コンシェルジュ	オブザーバーとして参加させていただいております。中部総合事務所県民福祉局の岸田でございます。よろしくお願いいたします。
青木地域振興監	ありがとうございます。それでは、議題に進ませていただきます。ここからの進行は松浦町長にお願いしたいと思います。

4 議題

(1) 第2期総合戦略重要業績評価指標検証状況等報告

資料2・別表

(2) 第3期総合戦略概要説明 資料3・別表 資料4

(3) その他トピックス 資料5

(4) 意見交換

松浦町長	それでは進行させていただきます。総合戦略等の報告説明ということで第2期戦略の検証状況の報告、そして第3期戦略の概要説明、最後にその他トピックスということで事務局から説明をお願いします。
事務局	それでは、総合戦略の報告・説明ということで青木の方からお話をさせていただきたいと思います。資料2からお願いしたいと思います。現在、第2期の総合戦略の最終段階ということで今年度は2期の総括をしてきておるところでございます。開いていただきまして、2ページから本町の地方創生の現状、社会の情勢、町の動きということで進めて書いておりますけれども、平成27年度から令和元年度までを1期。令和2年度から令和6年度、今年度までを2期ということでそれぞれ計画を策定し、農林業を初めとする産業の振興、観光振興移住定住などを進めてきておるところでございます。2期の中では、そこにも書いておりますが令和2年度からコロナの直撃を受けたということで主たる産業であります観光の分野では非常に大きな影響がございました。それらを常に、支えながら今日までやってきたということでようやく少し明かりが見えてきておるのかなというふうに思っておりますが、この間に、いわゆるデジタルを使った社会というものが加速をいたしまして皆さんも実感をしてお

られると思いますが、テレワークであるとかオンラインの会議、ショッピングとか、いろいろなものが、どんどん我々の生活の中に、仕事の中に入ってきたというふうに感じておまして、地方創生の中でもこの感覚を取り入れて常に進めていくということを意識しながら、やってきたところでございます。

3 ページでございますが、その中でも町の動きということでそこに5点ばかり挙げております。1点目は先ほど申しましたように観光の対策、振興ということでございます。そういう中では日本遺産が先日、改めて認定ということで、新たなスタートを切るといようなことをちょうどこの2期の地方創生の中で進めてきたということがございました。コロナと闘いながらやってきたということで、1つの成果に繋がっておるといふふうに思っておるところでございます。

2点目でございますが、先ほどデジタルの推進ということを申しましたが、令和2年度から町全体でケーブルテレビの光化ということに取り組んできております。現在の新しい仕組みについていくための基盤整備ということで、新しい社会についていくためのものということで成果が上がってきておるといふふうに思っております。

3点目は教育の関係でございます。三朝小学校の校舎、昨年の秋に完成をいたしまして、新たな学校のスタートということで教育分野、長い間少し迷惑をかけてきたのかなというふうには思っておりましたけれども、新校舎が完成をしまして教育の分野でも、新たなスタートを切っておるといふところでございます。

4点目は令和4年度から進めてきておりますが、温泉を活用した健康まちづくり事業ということでございます。三朝温泉の健康効果を活用しながら、時代のニーズでもある町民の健康づくりを進めていこうというものでございます。町民が健康に、温泉を活かすことができれば、温泉のいわゆる効果効能が新たな価値として観光振興にも繋がっていくと、そういうストーリーを描いて現在取り組んでおるところでございます。

5点目でございます。これは災害の関係でございます。最近やはり温暖化とかいろいろな影響の中で頻繁に大規模災害が発生をしております。こういったものへの対応ということで常に取り組んでおるといふことでこの5点がこの地方創生のこれまでに2期やってきた中での成果というふうにとらえておるところでございます。

5ページをお願いしたいと思います。地方創生の戦略の1つとしまして人口問題・人口減少への対応ということがございます。これについては、非常に苦勞しておるといふのが、現状でございます。そこにも縷々書いてございますが、最近では1年間に生まれる赤ちゃんの数、出生の数が10数人というような状況にもなってきておるところでございます。なかなか策が実りにくいという分野でございます。いわゆる自然減には出生数の確保というものがありますし、社会減には、定住、移住というようなことも必要でございます。それに加えて、昨今では人口減少というものが、避けては通れないということがより具体的に我々の目の前に迫ってきておりますので、人口減少社会への対応ということがもう1つ課せられた義務といいますか、役割ということでこれがこれからの地方創生2.0とかという中でも、大きく前に出てきておるといふふうに感じておるところでございます。

6ページをお願いします。2期の戦略の中で人口の問題と、町が取り組んできた事業の概

要を示したポンチ絵を載せております。参考にしていただきたいと思います、人口の統計表をご覧いただきたいと思います。現在 6,000 人を切りまして統計によって少しばらつきがございますが、5,000 人台半ばから少し出た辺りということでございます。社人研とかいろいろな推計が出てる中で悔しいながらその通りになっておるといような状況が見て取れるということでございまして、こうやって全体を見える化しますと 25 年後の 2050 年にはということがよりリアルになり、これどうするんだっていうのが正直なところでございます。いろいろ少子化等いわれる中で、1 つこの農業従事者という数が非常に少なくなっておりましてある意味、人口減少のリアルなトップランナーなのかなというふうには思っておるところでございます。これには農地がくっついておりますのでそういう中では、例えば町の環境とか暮らしていく上でのそういったものについても大きな影響を持っておるといふうに感じておりますので、総合的にこの辺は見ていかなくてはならないかなということで非常に危惧する部分かなというふうに思っておるところでございます。

7 ページ以降は取り組んでできました事業の重要業績評価指標と KPI といいますが、そういったものを載せております。最初のページは取り組む内容載せておりますので、KPI については、18 ページ以降で、各分野でやってきておるところでございます。それぞれ達成状況をパーセンテージ等で示しまして、客観的に、評価をしております。ここは見ていただきたいというふうに思いますが、全体の傾向としまして物を作ったり例えば建設をしたり環境を作ったりするという部分では、一定の成果といいますか、結果が出ているというふうに思うところがございまして、例えばまちづくり活動であるとか、そういう人の動きとか、子どもたちの参加とか、例えば町民の皆さんの活躍とか、そういった部分が非常に数字では出しにくいところではありますが、一方で、少しやはり伸び悩むといいますか、これが高齢化とか、人口減少のリアルな影響なのかなというふうに思っておりますが、この辺がいかに対策をとることがなかなか難しいわけですが、この辺が 1 つのこれからの肝かなというふうには思っております。どうやって熱を持ってその熱を増殖させていくかということではないかなというふうには思っておるところでございます。資料 2 の表は、先ほど申しました評価指標のもとになっておるものでございますので後程見ていただければと思います。第 2 期の総合戦略については、以上のようなまとめをしておるところでございますので参考にしていただきたいと思います。

続きまして、第 3 期の総合戦略の概要についてでございます。資料 3 をお願いいたします。第 3 期につきましては、実は今の国の地方創生 2.0 とかそういう動きが、昨年の後半ぐらいから出ておりますが、その前の段階で時期が来るのは分かっていたものですから、3 期について少し検討を始めておったということでございます。基本方針として総合計画に挙げていますが、笑顔と元気が溢れるまち、デジタルで豊かな三朝暮らしの実現というようなことを考えながら内部で準備を進めておったところでございます。そういった中で昨年の 11 月以降にこの新しい地方創生 2.0 というものが出て参りまして、本来ですと年度末には新しい 3 期計画をまとめるというスケジュールでおったわけですが、国や県が示すプランというのが、これから次の夏に向けて動きが出るようでございますので、そういったものをかなり意識をして作っていくのかなというふうには思っておるところでございますので、あえて今の段階はここまでということにさせていただいております。次のページにすでに皆さ

	んがいろいろなところで、ご覧になっておるとおもいますけれども、地方創生2.0の考え方のポイントというものを載せております。5本の柱が示されておりまして、安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生、東京1極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散、付加価値創出型の新しい地方経済の創生、デジタル新技術の徹底活用、産官学金労言の連携など、国民的な機運の醸成ということで示されておりまして、これに基づいて国や県の計画が作られるということで、県については先般、令和の改新という県民会議も立ち上がっておりますので、我々も町としてもそういった環境についていくという言い方が適切かどうかはあれですけれども、気を逃さずに乗っていくということが大事な役割になってこようかなと思っております。 次のページが計画策定のスケジュールでございます。先ほど申しましたように少し時間を取ることになりましたので、改めて与えられた課題を町の中に落としまして、新しい事業戦略を練って参りたいと思っておりますのでございます。皆さんのまたご意見をお願いしたいと思っておりますのでございます。資料4でございますが、これが現段階で年度末に向ける中で拾ってきた、庁内で検討してきました項目を現段階で挙げておるというところでございます。そういうことで、少し計画期間が延びましたので、これを入口として叩いていこうかなと、組み立てていこうかなというふうに思っておりますのでございますので、項目を少し見ていただければ、この後の意見交換でも、アドバイスをいただければというふうに思っております。資料5とこのペーパーにつきましては、その他トピックスとしております。機会をとらえまして町の中のことを意見を拾ってみようかということでも、大学生に対するアンケート調査というものでございますが、物価高騰の交付金を活用しまして生活支援をする中で、町出身の大学生に対してそこに設問をしております。将来的に鳥取に帰りたいと思うとか、仕事についてとか、家庭、人生においてというようなテーマで情報収集をアンケートを取ったという結果でございます。よくあるアンケートと言ってしまうとそうなんですけれども、町の出身学生がどういうふうに考えているのかということで、端的に言えば、戻りたいと思っている方が多いという結果にはなっておりますが、一方で仕事がうまくあるかということに対しては、結果の通りということになっておりますので戻りたい気持ちはそれでもあるんだなというふうに理解をするかなというふうに思っておりますのでございます。子どもを持ちたいと思うかということでも、持ちたいと思うことを答えていただいておりますが、こういったものを我々は糧にするしかないということでございますので、これに応えていくということが、役割でということをお願いしながら、町の教育というもので育てた子どもたちを何とか町に対しての貢献ということにつなげていきたいなというふうに思うところであります。それから最後は人口の推移のグラフをつけております。これがいわゆる研究所による推計との比較でございますが、冒頭に申しましたように、ほぼその通りにいきます。これを見ていくしかないのかなというふうには思いますけれども、今の状況をお伝えさせていただきます。簡単な説明で申し訳ございませんが、2期3期の状況について報告をさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。
松浦町長	ただいま、総合戦略の報告並びに今後の考え方について説明をしました。次は意見交換ということで、これから町が計画づくりを進める中で、いろいろな最初のご助言ということで、それぞれの皆さんの所属のところでの動きなり、何でも結構ですので、皆さんから一言

	ずっとご意見ご発言をいただければと思います。先ほども説明をしましたが、人口減少については私的には公表はしていませんけど、2040年に定住人口、交流人口合わせた人口5,000人規模のまちづくりをしていきたいというのを、ずっと思って進めてきております。大体定住人口が4,000人で、あと1,000人はいわゆる交流人口、宿泊者数と、日々三朝町を訪れる方かなという自分なりのその思いの中で、町のいろんな施策を進めてきております。 資料4の中で今の総合計画の柱で今後の主要事業の展開を書いておりますけど、基本的には1番については、いわゆる保育園・小学校・中学校の子どもたちの連携かなというふうに考えておりますし、2番の支え合いというのは、やはり安全で安心な街であってということと、それからデジタル化をどういうふうにまちの中で活用していくか取り組んでいくかということになります。3番については、今一番大きなテーマである温泉を健康づくりに活用していくということ、4番は、産業の持続だというふうに考えております。5番については、地域の皆さんが集まる拠点として、人が集まってそこで動きを作っていく。そこには、例えば学校の跡地を活用すると、そういう柱で考えていきたいというふうに思っております。 それぞれにご意見をちょうだいをしたいと思いますが、福田商工会長さんからお願いします。
福田委員	あくまで、商工会という立場でお話をさせていただきます。コロナ禍は先ほど説明がありましたように、観光産業を大きな打撃を受けました。本当に今まで経験したことのない打撃でした。しかし、その部分を皆さんの中で力を構築していただいて、コロナ禍明けは、商工会のベースは今160の事業所なんですけども、率として、県内で一番良い増加率、新規の増加率を表彰していただいたところでもあります。それには、やはり町の新規事業に対する支援があるというのもありがたいことだというふうに思ってますけども、町の外から三朝の中で起業される方が今非常に増えてきて、温泉街も大変今にぎわいを見せているところであります。さらに、この先来るであろう旅館等の事業者についても、また大きな期待をしているところでありますし、町には引き続き、新規創業等に対してご支援をいただけたらと思っています。商工会もその方々の事前に研修等をしながら新規創業に向けて行動を起こし、実際に事業をする、そして商工会の中に入っただいて、町中を元気にしていただく、今そういう流れが県内でも起きているところであります。新しくできるであろう温泉施設等を何とか利用しながら、我々も協力して温泉街等のにぎわいを作っていきたいというふうに思っています。また商工会という立場は全町でありますので、学校跡地等の考えがこれから出てくるというふうに思っていますので、そこら辺も利用させていただけたらというふうに思っています。
山本委員	普段、農業委員会という立場で動いていますが、農家の数っていうのがよく世間で言われる数と現実には私たちが見ている数っていうのは、年齢の部分がかなり含まれてないというふうに思っています。要するに6ページの表でもありますが、2030年に175人とあるんですけど、実際私たちが感じているのは、175人は多分、ほとんど後期高齢者に近い方が残った数字じゃないかと思っています。1年間で10何人の出生数の中で、守れるわけがないよなと、今のままではっていうのがすごく感じています。そう思って今の計画の中でいろんな施策をしていただいた中で、ブランドのお米を作って、それで町内の旅館の方々に供給して地

	元産のそれも有機減農薬の県認定を受けたようなものをブランド化して実際に旅館で使っていただけています。今喜んでもらえていると自負しているんですけど、その部分も後継ぎがどんどん見えなくなってきていると。面積を増やしたいですけど、幾ら参画を呼びかけても、拡大するところもないし、新規の参入者もないという状況がずっと続いてまして、その部分を本当に危惧している。いかに儲けるかっていうことがあるんですけど、米価が上がったっていう、商店言っていますけど、農家段階では、赤字の部分を今まで兼業農家として補填してた部分が、補填の金額が減っただけのことで、現実的には儲かってるという意識は、ほとんどありません。実感として、何とか暮らしていけるなど、子どもたちに後を継がせられるなど。戻ってこいっていえる状況になれるなっていう部分は、もう今自分たちで工夫して出荷先なり、確保なりをそういう部分を教えていただきながらやっていくのがもう術かなと思っています。農地そのものを、今現状の数値がそのままいけるとは思っていない。多分、半減ぐらいの農地で最終的に守っていくのが、今の状況ではないかなと。絶対にこの半減した部分の面積を残そうという部分が一番の目標になるんじゃないかなとは考えていますので、そこに対して行政サイドも含めて、応援していただければというのが、今の素直な気持ちであります。
加藤委員	自分からは、先ほど青木振興監からありましたように、山本委員さんからもありましたように、農地等々のやっぱり1次産業の農業に従事される方もだんだん高齢化になってきて、おらんようになられたというような形の中で、荒廃農地と合わせまして、三朝につきましては、そういった森林資源もかなりありまして、そういった中で、やはり維持作業といったのに携わる者といったしましては農業従事者も含めて、林業従事者も少なくなってきたというような状況にあります。荒廃農地、或いは荒廃林地が増えてくるだろうというようなことを危惧いたしております。そういった中やはり、荒廃農地や荒廃林地が増えるということであれば、今後の地球温暖化気候変動型の気象災害等々についても、森林を守ったり、農業用地を守っていかないと激甚化しつつあるんじゃないかなというふうに自分は思っております。そういった中であって、森林組合といったしましても森林を守って温暖化防止に貢献していきたいなというふうに思っております。そういった森林を守らないと農地の水資源の問題、特に三朝町の場合は、温泉という大きな資源を持っておられます。町の発展に何かできればなというようなことがありまして、以前から温浴とあわせて森林浴ということも考えております。余談ですが、私の知人が、車が好きでサーキット場作りたいと、三朝のその地域にそういった場所がないかということで今、山を見ておられまして、サーキット場と合わせて、観光資源の温泉があるものですから、そこに健康をマッチングさせたような形で施設を作って、温浴をして、森林浴して健康になって、そういった交流人口をふやしていき、その中で、地元にお金が落ちると、そういったことができたかなということで、夢のような話でしたけども、今後考えていけたらなというふうに思っております。農業と林業の1次産業ですけども、地球温暖化に合わせて、農作物が気候変動によってできないということで、キャベツ白菜が1個1,000円だとかっていうような事態があるのかなというふうなところ、人口が増えるというような予想はなかなか難しいかわかりませんが、交流人口をふやすような形ににしていただけたら幸いかなというふうに思います。

高見委員	地域代表というふうな部分で出てきてますので、そちらの考え方で話したいと思います。地域協議会が平成 18 年に地域の自立っていうふうな形で設立をされて、大方 20 年になります。10 年ごとに振り返りをやってきているんですが、最近特に活動の中でどの地域もそうなんですが、かなり地域によって、活動の状態っていうのが変わってきたっていうのがあります。今回の計画の中で、人口減少と高齢化っていう部分が、地域によってかなり差が出てきているというふうなことが 1 つあると思っております。それと地域の住民の考え方っていうのが、世代によってかなり多様化してきたっていうことで、本当で今の旧村単位の地域というものもいつまでもそういう縄張りで活動することが本当でいいのかなっていうような部分も含めて、今、地域協議単位の中で、これからの多様な時代の変化に対応した形の地域協議会というもののあり方を今検討を進めております。まだまだ具体的な形には結びついていないんですが、そういうふうな活動の課題っていう部分も含めながら、今模索をしているというふうなことです。特に最近感じるのは、地域活動を行う人材がだんだんといわけてはいないんですが、どうも高齢者雇用、定年制が伸びて、それで 70 歳まで当たり前に働かないけんっていうふうな形が定着してくると、60 歳で定年でまだまだ元気なうちに地域活動に参加していただいたのが、そこはどうも隙間がだんだん大きくなって、持ち上がりでずっと年寄りがお世話をしていかなきゃっていうふうなことがだんだんと起こってきているのかなっていうふうに思っています。そういう意味でいろんな人材活用というか、育成というか、そういうふうなものを、早めに取り組んでいかないと、地域活動も危ういっていうふうな考え方、枠組み、在り方、それから、対応していく力をどうつけていくかっていうあたりが、今の現実的な課題かなっていうふうに思っております。そんなところが今後の活動計画の中で反映されればありがたいかなっていうふうに思っております。
松浦委員	私の立場からは、いわゆる学校と地域を結ぶコーディネートを担当している関係でそういう立場からちょっと話をさせていただくと、令和 4 年から三朝町の学校に学校運営協議会っていうのを設置してコミュニティスクールという形でスタートしました。今年で 3 年目になるんですけども、最初はやはりコロナ禍の中で学校の中に地域の方がどんどん入っていくっていう状況がなかなかできませんでした。昨年のあたりからようやくいろんな形で行事等々で、地域の方に関わっていただくような状況ができて、今年度はかなりの方に入っていただきました。そして、地域の人にもお世話になったり企業、地元の旅館であったり商店であったり、それから中学生の体験学習では、森林組合さんにもお世話になりましたし、いろんな形でお世話になるような状況がようやくまた再開できるようになってきたっていうことがあります。その中でやっぱり教育っていうのはいわゆる人づくりですから、「将来、三朝のために、なんかこうやりたいな」という状況を小さいうちから、いろんな形で、地域の人や、地元の企業等、いろんな形で関わる中で都会に憧れるのでどうしても都会には出たいという思いは強いんですが、将来的にはこっちに帰ってきて何か起業でもするかと。自分で商売をやってみるかというような感じでそういう人材が出てくればいいかなということを感じています。確か令和 2 年ぐらいからですが、全国で初めてだったと思いますけども、中学校の修学旅行を地元の旅館に泊まって県内をいろんな形で再確認するっていうような形の修学旅行を取り組みました。地元に住んでいながら子ども達って本当に地元の旅館に泊まったことも少なかったです。そういう意味では、三朝っていい所だっていうことを再確認したと思い

	ますし、県内のいろんな今まで行ったことがなかった、身近にあったけども行ったことがなかったことも再確認できて鳥取県もいいなっていうことを感じたような状況もできたのではないかなと思っています。そういったことが、今、キャリア教育の中で小学生が地元でいろいろな形で経験してそれをビデオで作っていくようなことも、取り組みも進んできておりますので、いろいろな形で教育と地域とをつなげながら、これまで関わりがなかった人に、携わっていただくことで、やっぱり地元に貢献しなきゃなみたいな形に進んでいくといいなというふうに思っているところです。
岩崎委員	旅館業からのお話をさせていただきます。まず、コロナ禍のお話出しましたけれども、コロナ禍の真ただ中では大変厳しい状況がございましたが、令和6年で言いますと、コロナ禍以前に比べまして宿泊者数で、90 から 95% ぐらいまで戻ってきておまして、また物価高もありまして各旅館さん単価を上げておりますので、売り上げベースで言いますと、100% を超えてくるような数字になっております。ただ、とはいえもちろんいろいろと各種経費が上がっておりますので、人手の問題がやはり一番直面してるところでございまして、実際お客様の数を絞ってセーブしながら、人手に合わせて営業してるような状況は、聞いております。各旅館さんのポテンシャルが、すべて生かし切れている状況にないような状況でございます。また、人口推計を見ていて思いましたが、先の人口推計からしますと、旅館業は人手の問題もそうですけども宿泊者数の宿泊者の方のボリューム等も減っていくというような状況にありまして、やはり営業縮小、業界縮小のことも考えていかないといけないんですけれども、私ども旅館業、宿泊産業といいますか、大きな建物を建てて、営業していくというスタイルですので、やはりなかなか、売り上げを維持していくということを前提でお話を進めないといけない。未来志向の話をする中でも、なかなかこの人口縮小の話を本当に突き詰めてお話できるかといえ、まだ課題が多いところでございます。インバウンドのお客様を入れて、外国人人材を入れてというような話に終始してしまって、売り上げがキープしていくということを前提でお話していますが、最初の町長のお話でもございましたように、聞こえのいい議論に終始するのではなく、地に足のついたソフトランディングというようなことも含めて今後、議論していかないといけないかというふうに感じております。
荻原委員	人口減少は見た通りなんですけど、やはり維持していくっていうことも重要なことだと思います。その中でやはり若者で、大学の進学率が高くなりましたから、県外に出ていくと。もう1つは、就職で、県内企業を選ばず、県外就職を選ばれる若者は、最近増えております。また、大学とかで県外に出られた場合は、戻って来ていただくような施策をこれから展開していくことが必要じゃないかと思っております。例えばですけど、鳥取の魅力を繰り返して伝えていく。学生の頃から三朝町の魅力、温泉があって住みやすい、そういったことを教育していくと、後々は1回出たとしてもまた戻ってくる。 もう1点は、やはり移住促進で、三朝は温泉という観光資源もありますし、そういったことをもっと全国的にPRしていったら、住んでみたいというような方が増えてくるんじゃないかと思います。例えば、近隣自治体ですと育児支援に力をいれられているっていうことで、結構若者が、移住してくるっていう報道で見ましたから、そういった住みやすい町づくりを進めていただいたら、そしてそれをPRしていくことによって、また移住者が増えるっ

	ていうような格好で、人口の維持ということにつながるんじゃないかというふうに考えているところです。
中嶋委員	私からは、情報発信についてということになるんですけども先日、小学生が動画を作って、町の方に PR されたということで、それを見させていただいたんですけど、非常にいい取り組みだなというふうに感じております。なかなか私ども情報発信する機関ではあるんですけど、なかなか情報発信できてないなというところを感じております。実は今ケーブルテレビの開局から歴史をまとめておりまして、開局したときの映像等々見てたんですけども、三朝ウィークということで月曜日から土曜日まで当時生放送していました。来年度、何らかの形でそういった取り組みもできたらなというふうに考えております。実は弊社には、ANA の CA さんが政策の担当として働いておりまして、もう 3 年目になるんですけども、番組を作って、YouTube の方でも発信したりしているというところで私どもも一応取り上げるとそれ以降取り上げてないというところもありますので、しっかりと情報を取り上げていけたらなというふうに思っております。子ども達に地元企業に愛着を持ってもらえたらというところがあって弊社でも社会科見学であるとか、職場体験というのはしばらくしてたんですけども、コロナの関係でなかなか難しくなったりという時期もあったんですけども言うていただけたら、どんどん対応させていただきますので、ぜひ活用していただけたらなと思います。先日もとある小学校で 3 週間ぐらい前に社会科見学できないかというふうなことを言われて、日本海新聞の 1 階のところの入口のところに仮設のスタジオを作りまして、アナウンサーの体験するというようなところでさせていただいてますので、ぜひ活用していただけたらなというふうに思っております。
小谷代理	鳥取銀行の小谷です。銀行からは 1 つ以前と違いまして、金利が上がる世界っていうのは始まっておりまして実際事業を創業したりするのにも、去年から日銀、ご存じの通り、政策金利の方上がってきております。実際借り入れじゃなくて預金の方の金利なんかも上がっております。今までは定期の金利とかって 1 年で 0.001 とか 2 とか、すずめの涙ほどだったんですが、去年の 10 月以降我々の銀行もキャンペーン定期とかで 1 年、0.15 とか 0.2 とか出したんですが、もう 3 月から普通預金の金利は 0.2 ぐらいになるんで、今後も金利の上昇っていうのは続いていくのかなというふうに思っております。日銀の方も、今年度末までに政策金利を 1% ぐらいまで持っていくって言うておりますので、ちょっとその辺も新規の創業案件に対して影響がちょっと出てくるのかなというふうに感じております。 ただ、実際我々の銀行でも三朝町の方に新しく店を出したいっていう相談もちょっと何件か来ておりますので、支援しながら地域を盛り上げていきたいなと思いますが、三朝町さんをお願いしたいのはもっと何といいますかね。もっと店を出しませんかみたいなアピールをもっとしていただいて、儲かるんだよっていうような情報発信をしていただくとそういった案件も増えてくるのかなと思いますので、そういったところ力を入れていただけたらなというふうに思っております。
塩谷委員	安心のよりどころということでお客さんがいっぱいおられるのでその中で感じたことを話させていただくのですが、まずこの「まち・ひと・しごと」っていう国が決めたんだらうと思うんですが、「しごと・ひと・まち」なんじゃないかなというふうに感じてます。まず仕

	事がないと、人も集まらない。仕事があると人が集まってまちができるんだらうなっていうのが今の現状じゃないかなと思いますし、冒頭の青木さんがお話をいただいたように、三朝の子どもたちが、帰ってきたいかどうかというアンケートで、3割ぐらいでしたっけ、33%が戻りたい、42%ができれば戻りたいっていうのはものすごいことじゃないかな。戻ってきたいっていう子供たちが8割ぐらいいるっていうのをこれは見逃せないなというふうに思ってます。じゃあなんで戻ってこないかっていうと、仕事がないから戻ってこないだろうと思いますのでやっぱり、三朝町に限らず中部、鳥取県でそういう子どもたちが帰ってこれるような仕事があれば、少なくとも流出っていうのは、減ってくるんじゃないかなというふうに思います。 先ほど、加藤委員がサーキット場を作りたいという方がいらっしゃるって夢みたいな話ですけどって最後に言われたんですが、夢みたいな話を実現しないと、インパクトの強いことはできないんだらうな。それに向かってやっぱりいかなきゃいけないんだらうなと思いますので、当たり前のことを当たり前のように言っても全然変わってこないんだらうなと思いますから、そういう人たちをやっぱり巻き込んでいかなきゃいけないんだらうなというふうに思います。ぜひですね、夢だからとか突拍子もないから考えないではなくて、そういうことに力を入れて仕事をふやしていった方がいいんじゃないかなというふうに感じます。それと農業についても本当に大切なところなんだらうと思っていますし、人口がどんどん高齢化をしていって人が減ってくるっていうのも事実なんだらうと思うんですが、ただ全国的に見れば、農業したいなっていう人たちは、若者たちはいっぱいいるんだらうと思うし、実際に三朝にも数名は来られてるんだらうと思いますんで、ただ、来たはいいけど、何をしたらいいんだらうかな、農業したいんだけどっていうことであれば、三朝町独自になるのかどうか、農業の支援お金だけでなく技術の支援であったり、土地であったりっていうところを提供して、自立ができたら返すみたいなことがあれば、本当においしいお米、貴重な農業、就農者もふやしていくっていうことをして、三朝の魅力っていうのをふやしていただきたいなといきたいなというふうに思います。
蛸積委員	我々、NTT としましては地域 ICT というところを名目に様々な課題解決ソリューションというところを展開しています。特に鳥取におきましては、地域のベストパートナーになるとスローガンを掲げておりまして地域の課題解決をしっかりとやっていこうというところまで進んでいってるところでございます。特に観光、教育、防災というところに力を入れさせていただいておりまして、各種課題を拾い上げながらそれに解決できるようなベストソリューションっていうところをご提案させていただいております。先ほどもいろんな分野の皆様から、こういう課題があるんだと聞かせていただきながら、我々が持っているもので何か解決できるかなっていうところと色々な目線で、考えさせられた場になったかなと思っております。NTT 西日本のグループ会社で研究所を運営してるんですけども、地域の課題をプレゼンをすれば、それに対して全国のアイデア持ったりだとか、技術を持っている、特にベンチャー企業から、こういうことができますよみたいなところでマッチングができるような場っていうところ我々サービスを提供させていただいております。ここの会員登録無料になってまして、各分野の皆様が会員になっていただいて、こういう課題あるんだけどなっていうところを投稿していただければ、それに対してのソリューション提案みたいなのをさせて

	いただく。それがさらに、企業誘致できるようなチャンスになるというようなところの我々も提供しておりますので、ぜひこういう場を使いながら、皆様の課題に真摯に向き合って、我々協力して解決できればと思いますのでよろしくお願いいたします。
三沢委員	私は大学で働いている1人の教員の経験とかそういうところからお話させていただこうかなと思います。まず本学は、95%が山陰両県から入学してきてますので、そのほとんどが山陰両県に就職していくという状況で毎年、安定的に送り出しているのかなと思います。 実は、鳥取県内の特に旅館業の部分に対する興味は、学生たちはすごい持っています。ただ、最終的にそこに進まない、説明会やってもらってすごい説明を聞きに行くのに、最終的には、そこではない企業に出してしまうっていうようなことが多くて。いろいろ話を聞いてみると、やっぱり一番は休日シフトという部分が、いわゆる一般的な業界の部分と合わない。友人たちと同じタイミングで遊びに行きたいとか、そういうところが今の若者をかなり強い思いを持っているので、私も旅館業の知り合いがいまして、シフトを見直すっていう動きも今出てきているんだって話もちょうと聞いて、何か解決の糸口があったりするのかなと思ったところです。進路指導もしていますので、もしよければですけど本学の学生たちとの意見交換の場とかは、言ってもらったら大学の方に働きかけます。これは、すぐすぐ実現できるのかなと思います。 もう1つは、経営工学分野が専門でして、お隣のNTTさんもおっしゃられてましたが、第3期の案で見ていると、大きいセクション12の部分に「DX」というキーワードが挙がってきています。世界中でそういった動きが起きてますが、何を目的として、業務のどの部分に焦点を当ててDX実現していきたいのかなっていうところを、絞っていかないと難しいのかなと思っています。工学が専門なので専門的な知識と技術、技術とかも日々勉強はしているんですけど、実はそんなのはさして重要じゃないと思ってましてすごい簡単な誰でも使えるようなツールっていうもので、その業務をいかに効率化していくのかっていうところが、ポイントだったりするのかなと思っています。 それと先ほど郵便局長さんがお話されていた夢の話ですけど、わくわく感とか、面白いなっていうのがないと、学生が進もうと思わない時代になってきています。私個人も面白みがなくなったらこの仕事はうーんと思いながら、生きているところなので、何か1つ面白いっていうような部分があるとごそっと若者が動くのかなとは思っていますのでそういうヒアリングとかも全然協力できますので、また声かけてもらえたらと思います。
岸田コンシェルジュ	皆さんのお話をいろいろお聞かせいただいた中で、やはり仕事がないとなかなか定住者も移住者の呼び込めないということがあったと思います。それで農業の話ですと、ブランド米の他、野菜もですし、旅館の方でも、供給してますますブランド力を高めて、高付加価値化をもっとしていくということで、宿泊客の方にPRしてもいいのかなというふうに思っております。また、若者に対しての企業がしやすい環境づくりをしていくということが必要になってくるかと思っています。DX化で、旅館の休暇の取りやすいような仕組みづくりとかしていけばいいのかなと思っています。あと、統計の数字になりますけども製造品出荷額、従業員1人当たりということなんですけども、三朝町さんは残念ながら県内で19番目ということになっておりまして、企業誘致に力を入れる必要があるのかなと思います。

松浦町長	ありがとうございました。それぞれにご意見をちょうだいしました。今のご意見を、これからそれぞれに活かしていきたいと思います。三朝町は不便だというイメージはあるかも知れませんが、実際に住むにはとってもいいところでして、旅館、事業所、工場などありますが、町内だけではなくって中部圏域、そして県内圏域の中での、その就労環境という全体で考えておりますし、それから学ぶ環境というのもあるし、研究機関もあるし、いろんな形で幅広くにPRをすればいいのかなとこういうふうに思っておりますので、そういったことがいろんなことで、魅力づくりになって関心を持っていただけるということだと思えます。このような環境を生かしながら、田舎の町の中でデジタルをうまく組み合わせていくということにしていきたいと、やはり人の繋がりがあって、それが基本になっているような情報化デジタルも生かしてくるというふうに考えておりますのでそういったことも踏まえながら、いろいろこれから計画づくりを進めていきたいと思っています。
事務局	事務局から、今後の流れについて、ご連絡をさせていただきたいと思います。資料3別表にもつけておりましたけども、今後第3期の戦略を、令和7年の秋頃に、目指して進めていくに当たりまして、少し先ですけども7年の夏頃にもう一度、皆さんにお集まりいただいて、会議というものを設定したいというふうに考えております。それまでの期間におきましても、年度末3月を目途にですけども、国や県の支援を受けて進めております物価高騰に対する支援、過疎計画をもとに進めている事業についての実績が上がって参りますので、そういったものの実績報告というのも、書面での送付にはなりますが、皆様にご報告をさせていただきたいと思います。 それから4月以降新しい年度に入ってからにはなりますけども、新しい戦略を進めていくに当たりまして、各委員の所属団体の方に意見をお聞きにあがったりだとか、いろいろお話を伺い行かせていただきたいと思いますので、またそちらもご協力をいただければと思います。

5 閉会

青木地域振興監	それでは以上で、本日の会は終わらせていただきたいと思います。お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。
---------	--

11 : 00 閉会